
隣のおっさん

コブラツイスト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
隣のおっさん

【Nコード】
N7502B

【作者名】
コブラツイスト

【あらすじ】
簡単に言うと、オレとおっさんの物語です。

おっさん登場！！（前書き）

初めての投稿なので、読んでいる内に、不満等が出ると思いますが、御了承お願いします。

おっさん登場！！

これは、オレ（１６歳）が住んでいる家の隣にある、震度２ぐらいで倒壊してしまいそうな、ボロボロで小さい家に住んでいるおっさんとオレのしょーもない物語である……………。

オレは、先程紹介した通り思春期真っ盛りの１６歳である。思春期というのは、何にでも興味を持つ時期である。例えば、それが、しょーもない人でも……………。そんな時期に、オレは、おっさんと出会った。

オレが、初めておっさんに会った時、おっさんは、タンクトップにトランクスという、至上最悪の組み合わせだった。

しかも、何十年も使ったのであろう、どちらもボロボロだった。

タンクトップの色は、もともとピンクだったのだろうが、たぶん汗とか何かで、……………いや、このおっさんの場合

汗だけだろう……………。とにかく、めちゃくちゃ黄ばんでいて、

大きいボロぞうきんを羽織っているようにしか見えなかった。

トランクスはというと、ボロボロすぎて、もう下半身を隠すという働きをしていなかった。

もうおっさんのぶつが……………いや、もういいだろう……。とりあえず、最悪の出会いだった。

しかし、オレは、何故か、どうしてか、自分でも分からないが、そのどこからどう見ても変質者のおっさんに興味を持ってしまった。

しかし、これがきっかけでこれから、しょーもない人生を送ることになるとは、オレは、まだ知らなかったいや、知りたくなかった……。

オレは、初対面だったがおっさんにこう言った。 「おい、おっさん!! その格好で歩くな!!」

すると、おっさんは、 「何を言うとか小僧! この格好は、先祖代々伝わる由緒正しい格好なんじゃぞ! それと、わしはまだ、おっさんではないわい!

まだ、ピカピカの1年生じゃ!」

オレは、今まで、母に感謝したことがなかったが、この時は、オレを産んでくれた母に、本当に感謝した。

「わけ分かんねーボケ、かましてんじゃねー!!」

あんたは、誰がどう見たって、学校のベランダによく落ちてるカラカラになったきつたないぞうきんにしか見えんわ!!

しかも、何が由緒正しい格好だ!! もう、ここまで来たら、セクハラの1種だろーが!! 警察呼ぶぞ、警察!!」

「おう、呼んでみる小僧!」

「言われなくても呼んでやるわ!!」

ピ・ポ・パ…… プツ、プツプルルルルルル、プルルルル、ガチャ……

「もしもし、。。警察署です。」

「あつ、。。警察署さんですか? あのですね、今、僕のまピツ、……」

プー、プー、プー……………

「おいこら！！何しとんのじゃ、おっさん！！」

「悪かったって、オレが悪かったから、ねっ！

もういいじゃない！」

「は！？は~~~~~！？さっきまでの勢いは？？

おっさん、めっちゃかつこ悪！！」

「警察に勝てるわけがないじゃん、警察とか卑怯だわ、最近の若者は、空気が読めてないわ……………卑怯者、卑怯者、卑怯者」

「うるさーい！！空気を讀むか讀まないかは、人の勝手だ！！それに、あんたに、最近の若者の何が分かる！！」

「分かるも何も……………わしには、1人の息子がおったんじゃ……………」。

14、5年前のちょうど今頃、わしの息子は、交通事故で、星になつちまいやがった。

あれは、不慮の事故だった息子のオカ力は、その日、たまたま、タクシーに、足の小指をぶつけちまった……………それ以来、オカ力は、もう二度と、目を覚まさなかったんじゃ。」

「そ、そうだったのか……………悪かったな、おっさん。じゃあ、警察まで一緒に行こうか。」

「え？え〜と、おじさんの話、聞いてた？？
何で、そういう方向に行っちゃうのかな？」

「さっきの話、全部うそだろ？」

ん？

「ん？じゃねえ！！」

そんなでたらめな話、誰が信じるか～～！！

大体なんだ才力かって！！センス0だろ！！

もし、オレが、そんな名前付けられたら、物心ついた瞬間、親の事
思いっきりビンタしてるわ！！

それと、タンスに、足の小指ぶつけて、交通事故って何だ？人をバカにしてんのか、あんたは！！

どくに、交通がかかってるんだよ！！

しかも、事故って言うほどの事じゃねえだろ、誰でもたまに、ある事だろーが！！タンスに、足の小指ぶつけただけで、人間が死ぬのか？あんたの息子は、小指に、脳やら心臓やらがあるのか、このバカやろー！！ハハ、ハハ、ハハ……………」

「おじさんと一緒に精神病院に行こうか。おじさんいい先生知ってるから。」

「オレは、狂ってなんかいいわ~~~~~!! いい加減にしろ、このクソじじい!!」

「まったく、なんで最近の若者はすぐに逆ギレするかね。わしは、そろそろ夕食の準備をしなきゃならないから、遊びの続きは、また今度な！」

「誰もあんたとなんか、遊んでねえ！！」

オレは、そう言い残して、急いで家に帰った。

おっさんと話していると、頭が痛くなってくるからだ

早くあの顔を忘れない、あの、紙をクシャクシャにしてその上で、福笑いをして見事に失敗した時のような想像しづらい顔を……。

しかし、オレは、まだ気付いていなかった。

オレとおっさんが、言い合ってる時、家の近所のスーパーでは、松坂牛500グラムで、50円という、ありえない金額でタイムサーブスが始まっていたことに……。

「ん？あれ？？前の1文、なんかどうでもよくね？」

おっさん登場！！（後書き）

わざわざ僕の小説を読んでいただきありがとうございました。

意見等があったら、好きなだけ書き込んで下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7502b/>

隣のおっさん

2010年11月14日03時10分発行